

図3：安曇野市の地下はどうなっているの？（北アルプスから三川合流部付近に向かって地面をケーキのように切った北半分を見てみましょう。）

・帯水層：地下水がたくさんたまる層

—— 豊水期の地下水位の高さ
 - - - 渇水期の地下水位の高さ

・安曇野市の地下には砂礫層が何枚も重なっています。

・砂礫層は古いものから順に第四紀更新世に堆積した片丘礫層、波田礫層、森口礫層が重なっています。

・その上に第四紀完新世に堆積した礫層が重なっています。

・これらの砂礫層はすき間が多いので、水をよく通すという性質を持っていて、安曇野市の地下の帯水層になっています。

・北アルプスや筑摩山地は堅い岩石によって作られています。

・岩石は比較的水を通しにくいいため、安曇野市の地下の帯水層のうつわになっています。

新第三紀おわり～
 第四紀はじめの基盤岩

・北アルプスには、日本海などの海から蒸発した水蒸気が雨や雪として降ります。

・降った雨や雪は烏川などの河川を通じて流れ下り、安曇野の扇状地を潤します。

・三川合流部では、犀川、高瀬川、穂高川が合流し、1本の犀川になります。

・合流後の犀川はさらに信濃川に合流して新潟まで流れ下ります。

・地下水の水温は、地表の気温に関係なく、一年中13度前後のため、わさびの栽培に適しています。

・地下水が湧き出る三川合流部の近くに、わさび田が作られています。

△注意！必読のこと！！ 本資料中の説明は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用にあたっては、地元の地形・地質や地下水等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにして下さい。